

1. 県内企業の課題解決を支援

工業技術総合センターでは、技術相談や依頼試験、研究開発等により、中小企業の技術的課題の解決や製品開発の支援を行っています。

ある県内企業（金属表面処理加工業）では、工場内で4台のコンプレッサ（工場内の機械装置の動作に必要な圧縮空気の製造装置）が稼働していましたが、効率的に運用されているのか確認する方法がありませんでした。

そこで、工業技術総合センターが、工場内にセンサを設置して長期間測定し、圧縮空気の利用状況を数値化した上で、適正なコンプレッサの運用方法、稼働台数等について、省エネ専門家とともに検討し、その他の電力消費の多い設備の省エネとあわせて、改善策の提案を行いました。

改善策の実施により、企業の電力使用量が削減され、年間数百万円の電力費が削減される見込みです。



■ 社内検討会



■ エネルギー測定



＜企業経営者の声＞



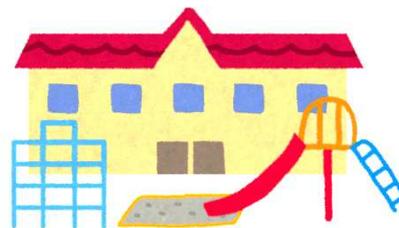
多分非効率な使い方だろうと思っていた当社のコンプレッサ。支援を受けて見える化を行ったところ、問題点の究明と改善を行うことができました。

さらに多くの改善提案を受け、電力の大幅削減を達成することができました。ご指導いただいた先生、工業技術総合センターの皆さんには感謝感謝です。

2. 地域社会での奉仕活動を実施

松本技術専門校では、職業訓練の一環として、心豊かな人間性・社会性を培い、「お客様」との接遇や「おもてなし」についての理解を深めるため、地域社会での奉仕活動を実施しています。

平成 28 年 11 月 10、11 日に、建築科建築大工専門コースの 2 年生 5 人が松本市立松本幼稚園を訪問し、古くなったテーブルやベンチの塗装を取り除き、表面をきれいに磨いて新たに塗装し直すなどの修繕を行いました。



<園児たちの反応（H28.11.11 信濃毎日新聞朝刊より）>

園児たちが「ありがとう」と手を振り、訓練生たちが作業の手を止めて応える場面も。

年長の□□□□ちゃんは「毎日おままごとに使うテーブルなので、直してくれてうれしい」。



<幼稚園からいただいたお礼状>

色々無理なお願いをいたしましたのに、子どもたちの安全を考え、心を込めて整備をさせていただき本当にありがとうございました。子どもたちは、新しくきれいになったテーブルや椅子に早速座って、楽しい活動を繰り広げています。

また、忙しい作業の中で、子どもたちと交流もいただき、大きいお兄さんたちとのあそびが本当に楽しかったようです。にこにこ顔で担任の先生に報告していました。

3. 働きやすい職場環境づくりの推進

産業労働部では、県内にワーク・ライフ・バランスの普及を図るため、仕事と家庭の両立ができる職場環境の改善や雇用の安定を進め、従業員がいきいきと働き続けられるよう短時間正社員制度など多様な働き方等の制度を導入し、実践的な取組を行っている企業を「職場いきいきアドバンスカンパニー」として認証しています

【認証企業70社（平成29年10月1日現在）】

認証企業に対しては認証マークを付与し、企業のイメージアップや優秀な人材の確保・定着等につなげるとともに、県ホームページなどで広く発信することにより、県内全体への普及促進を図っています。



<認証企業のFacebookから>

弊社が「職場いきいきアドバンスカンパニー」に認証され、本日、認証書の交付式が行われました！

「職場いきいきアドバンスカンパニー」とは、仕事と家庭の両立ができる職場環境の改善や雇用の安定を進め、従業員がいきいきと働き続けられるよう実践的な取組を行っている“一歩進んだ”企業のみが認証されるというもの。

このような認証をいただけるのは、とても嬉しいことです(*^^*)

4. 離転職者等の就業を支援

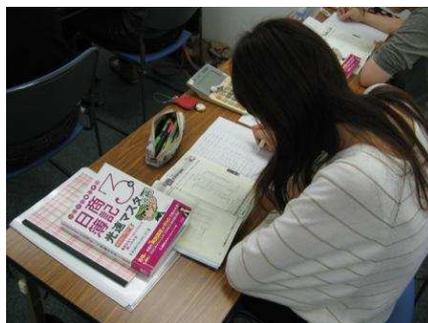
工科短期大学校及び技術専門学校では、離転職者等を対象に、就職に必要な知識・技能を習得するための職業訓練を民間教育訓練機関等に委託する「民間活用委託訓練」を実施しています。

平成 28 年度は、922 名が訓練を修了し、746 名の就職に結びつきました。



<受講修了者の声>

この3か月は本当に良い勉強をさせていただきました。これからの人生ですべてがプラスにつながる時間でした。ありがとうございました。



パソコン初心者の私でしたが安心して学ぶことができました。訓練を受講させていただき本当によかったです。



勉強しながら託児サービスを利用できることはとてもありがたいです。このような制度はぜひ今後とも続けていただきたいです。

5. 若年者の就業を支援

ジョブカフェ信州（若年者就業サポートセンター）では、就職に悩みを抱える学生を含めた40代前半までの若者に対して、キャリア・コンサルティング、情報提供、職業紹介の3つのサービスをワンストップで提供するとともに、就労体験事業等を実施し、職業的な自立を支援しています。

スタッフは、訪れた相談者に対して、面談を通して就職活動のポイントや注意点をアドバイスし、一人でも多くの若者が採用に結びつくことを願いながら支援をしています。



<相談者の感想>

- 勇気を出して相談してよかった。
- もっと早く相談すればよかった。



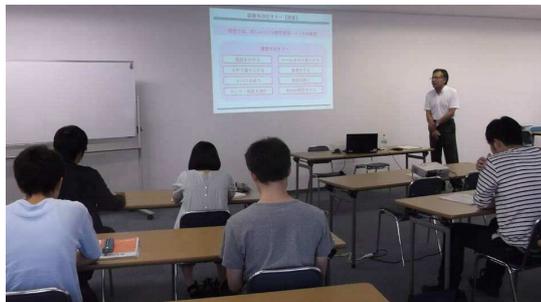
（履歴書や職務経歴書の添削の指導に対して）

- 自分では思いつかない視点からの文章に感動した。
- 提示された例文を参考にして、自分なりの文章を書くことができそうな気がする。
- 自信を持たせていただいたことに感謝する。



（面接指導に対して）

- 学生時代に経験して以来の体験だったことから、緊張もしたけれど、実践を通しての指導はとても有意義だった。
- 就活本からは知ることのできない体験だった。



後日、相談者から「合格しました！」「お世話になった□□さんに、誰よりも先に報告したかった。」という電話連絡をいただきました。

電話口で満面の笑顔を見せている相談者が想像できました。

仕事のやりがいを感じた瞬間

日々の業務に追われる中、やる気や元気を失いそうになってはいませんか？

あらためて新鮮な気持ちで仕事と向き合うため、職員の皆さんが「仕事のやりがいを感じた瞬間」をご紹介します。

<工業技術総合センター職員>

連携・支援した地域企業が、研究成果の事業化に関連して大きな成果を収め、そのことについて「ものづくり大賞NAGANO」で表彰されたとき。



<工科短期大学校職員>

実習授業で、学生が「あれっ、もうこんな時間か・・・」という言葉が発したとき。授業内容への良い手応えと学生の集中する様子を感じ取ることができてやりがいを感じた。

<地域振興局職員>

創業支援資金の貸付後に事業者から感謝の言葉をいただいたときや、商談会への出展を依頼した事業者から出展が商談に結びついたことに対して感謝の言葉をいただいたときには、自分が産業振興や地域振興に携わっていることを改めて実感するとともに、やりがいを感じた。

<技術専門学校職員>

訓練生の就職試験の結果が通知され、採用と書かれた紙面を見たとき。指導員自身の力がその結果に直接作用したわけではないとしても、入校の最大の目的を果たすことができたわけで、指導員として心から良かったと思える。



<労政事務所職員>

労働相談に訪れた方から、「相談に来てよかった」、「悩みが解消された」、「無事に解決することができました」など、感謝の言葉をかけられた時や、何も言わなくても笑顔で帰られたとき。

<県庁職員>

東京の私大で勉学に励む女子大学生から、卒業後長野県にUターン就職したいとの相談を受けた。内容は、「長野の企業がわからない」「どのように就活をすればよいかわからない」「就活時に学校との両立ができるのか」というもので、非常に不安な表情を見せていた。長野県内の企業の調べ方、県が実施している支援や相談場所等、一つ一つ疑問に答える中で少しずつ表情が明るくなり、最後には、「色々ためになる話を聞いた」「相談して良かった」と満面の笑みでお辞儀をしてくれた。自らの仕事の意義を改めて知るとともにやりがいを感じる事ができた瞬間だった。

<技術専門学校職員>

修了した訓練生が、就職後に校を訪れて、立派な職業人になった姿を見せてくれたとき。



<工業技術総合センター職員>

地域企業へ出向いて現場の担当者の技術的相談に対応しているが、ある企業へ出向いた帰りに「是非次もあなたのような人に来てほしい。」と言われたとき。

<工科短期大学校職員>

オープンキャンパスで、受験を希望する高校生の訪問だけでなく、多数の卒業生が訪問してくれたこと。本校に特別な愛着を感じてくれているということが伝わり、仕事のやりがいを感じた。

<地域振興局職員>

地味だが、県民からの急な問い合わせに即座に答えられたとき、求められた資料をすぐに提供できたとき、公務員冥利というか、やりがいと喜びを感じる。

<工科短期大学校職員>

就職活動で指導を行っていた学生が内定取得の報告に来た際に、祝福の言葉とともに握手を求めると満面の笑みを湛えて嬉しそうにするとき。

産業労働部内における共有

『笑顔プロジェクト』は、県民の皆様が喜んだり、笑顔につながった事例を職員が共有し、職員一人ひとりに、今一度、「誰のために」、「何のために」仕事をしているのか再認識を促すとともに、職員のやる気、元気を引き出すことを目的としています。

そこで、産業労働部では、今回紹介した事例以外の事例も含め、とりまとめた内容を部内各所属へメール配信し、所属ごとに職員の間で情報の共有を図りました。

職員からは、以下のような感想が寄せられました。

県民のみなさんから、様々な笑顔や感謝をいただき、多くの職員がそれを励みにしていることがわかりました。これは、公務員としての原点だと思います。これからも、一つでも多くの笑顔や感謝を県民の皆様からいただけるよう頑張っていきたいと思っています。



多くの職員の間が県民の方々から感謝と笑顔をもらっている事例に触れて、「よし、私も頑張ろう」という気持ちになりました。

自分の業務が県民にどう捉えられているか、本当に役立っているかを知る機会はなかなか無かったが、事例中、感謝の言葉を見て改めてやりがいを感じるとともに気が引き締まった。

他地域で同じ業務に取り組んでいる方々の事例を知ることによって、より一層の向上心をもって業務に取り組みたいと感じた。

事例を読み進めるうちに、県民の役に立っていることがうれしくて、自然と笑顔になることができました。



自分も事例のような言葉を県民からかけてもらえるよう、更に県民目線で頑張っていかななくては・・・と思いました。



「笑顔」という結果の事例ですが、そこに至るまでの過程が重要なのだと感じました。真剣に取り組んだ先に「笑顔」があるということを忘れず、日々業務に当たりたいと思います。

自分たちの身の回りには、笑顔につながる、小さくて見落としとしてしまいそうになる事例がたくさんあることに気づかされました。そのような事例を見ていると、一つ一つの仕事を丁寧に行うことの重要性も再認識しました。今後も、日々の仕事に流されて、大切なことを見逃さないように、感性を豊かにし、相手の気持ちに寄り添って、仕事に取り組みたいと思います。

県職員として当たり前と思って行っていたことを、こんなに喜んで頂けていたのかと自分もうれしくなりました。引き続き担当業務に力を入れていこうと思いました。

個々の事例から共通して、行政サービスの対象となる県民等の充実感の向上が、職員のやる気・能力を引き出し、ひいては組織力の強化に繋がると実感しました。



日々の業務を誠実にこなしていくことの積み重ねが、県民の方からの信頼や感謝に繋がっていると感じられる事例が多かった。自分も担当する業務を誠実にこなして、他の方が積み重ねた信頼を崩さないようにしたい。